# TV 報道検証【報道特集】　報告書

| テレビ局： TBS | 番組名：報道特集 | 放送日：2019 年 8 月 17 日 |
|---|---|---|

出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙
瀬戸隆二（戦争孤児を取材）

検証テーマ： オープニング、香港のデモ、アメリカが台湾に F16 売却の方針を固める
高校生平和大使、秋篠宮一家がブータンに私的旅行
【特集】最悪の日韓関係～和解への道は
【特集】戦争孤児と 500 人のお母さん

報道トピック一覧

・U ターンピーク
・オープニング
・煽り運転で指名手配の男性と同ナンバーの車が愛知や静岡でもあおり運転
・香港のデモ
・アメリカが台湾に F16 売却の方針を固める
・東京五輪水質悪化でテスト大会の中止
・岩手県盛岡市で短歌甲子園
・高校生平和大使
・秋篠宮一家がブータンに私的旅行
・アメリカ俳優のピーターフォンダさんが死去
・東京でも猛暑日
・東京五輪のホッケー会場が完成披露
・神奈川県座間市のアパートで火事があり一人死亡
・【特集】最悪の日韓関係～和解への道は
・【特集】戦争孤児と 500 人のお母さん

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨

・オープニング：結論→不十分

番組の冒頭で金平キャスターが「森友学園事件をめぐる公文書改ざんで中心的な役割を担った財務省の官僚は昨日付で駐英公使に任命されました。ほとぼりが冷める、人の噂も七十五日、この日本語の表現の意味を子どもたちに教えるときには今後は例として使われてはいかがでしょうか。」とコメントしていた。このコメントに当てられた時間は 21 秒で、この駐英公使に任命された財務官僚について言及されたのはこの部分だけだった。

ところで、駐英公使に任命されたのは財務省の官僚であるが、誰を駐英公使に当てるのかは財務省の独断で決定できることではなく、外務省も関与する話である。こうした点を一切省いて、まるで財務省だけでこの人事を行っているかのような印象を与えかねない伝え方というのは放送法第四条一項三号の「報道は事実をまげないですること」という点に照らして不十分であったといえる。

・香港のデモ：結論→特に問題なし

日下部キャスターの「刑事事件の容疑者を中国本土に引き渡すことを可能にする逃亡犯条例の改正案に抗議するデモが続く香港。先程から再び抗議デモが始まり、混乱は続いています。」というコメントを導入に以下に朱記

した VTR が取り上げられていた。
"群衆「香港頑張れ、香港頑張れ」
ナレ「香港、九龍側東部の公園では先程から逃亡犯条例の改正案に抗議する集会が始まりました。主催者側は参加予定の 2000 人を既に超える人々が集まったとしています。香港島のセントラル地区でも学校の教師らが主催して学生らの意見を尊重せよなどと訴え、デモ行進を行いました。香港警察は昨日、香港国際空港で中国共産党系の国際紙環球時報の記者が抗議デモの一部の若者らに結束バンドで手を縛られ暴行された事件をめぐり、違法に記者を拘束した疑いなどで 19 歳の消炎を逮捕したと発表しました。中国政府は香港との境界に近い中国深センの競技場に武装警察を配置していて今日も多数の装甲車やトラックが車列を作り待機している様子が見られ、抗議デモへの圧力を強めています。香港では明日も逃亡犯条例の改正案に反対する大規模な集会が行われる予定で、混乱が収まる気配はありません。」"
　このトピックに当てられた時間は 90 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・アメリカが台湾に F16 売却の方針を固める：結論→特に問題なし
　膳場キャスターの「アメリカ政府が台湾に対し最新型の F16 戦闘機を売却する方針を固め、手続きを進めているとアメリカの複数のメディアが報じました。」というコメントを導入に、以下に朱記した VTR が取り上げられていた。
ナレ「ニューヨーク・タイムズ紙の電子版など複数の米メディアは 16 日、トランプ政権が台湾に対し F16 戦闘機を売却する方針を固め、議会に非公式に通知したと報じました。売却する F16 戦闘機は最新型の 66 機で 80 億ドルおよそ 8500 億円に登り、アメリカの台湾に対する武器の売却としては、過去最大の規模だとしています。これに先立ち台湾の蔡英文総統は 15 日、航空宇宙産業の展示会で最新型 F16 戦闘機のフライトシミュレーターなどを視察し、台湾の防空強化のために F16 戦闘機をもっと保有したいと述べていました。一方、中国外務省は中国の主権と安全保証上の利益を損なうもので、断固反対だとする談話を発表しました。また、台湾問題は中国の核心的利益に関わるものと、強調していて、既にアメリカ側に厳重抗議したことを明らかにしました。米中の間では貿易協議が続けられていますが、台湾問題を巡る対立が深まることで協議のさらなる停滞を招く可能性もあります。」
　このトピックに当てられた時間は 87 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・高校生平和大使：結論→特に問題なし
　高校生平和大使について以下に朱記したように VTR で取り上げられていた。
"ナレ「核兵器廃絶を求める署名をスイスの国連欧州本部に届ける高校生平和大使が今日、長崎を出発しました。98 年から続く高校生平和大使は今年で 22 代目で、長崎からは 3 人が選ばれました。今年、過去最多となる 21 万 5000 筆あまりの署名が集まりました。」
横田晏衣さん（高校生平和大使、活水高校 2 年）「世界の平和の実演に向けて、そしてまた核兵器ゼロに向けて活動していきたいと思います。」
ナレ「一行は明日、スイスに到着し、22 日に国連に署名を提出する予定です。」"
　このトピックに当てられた時間は 40 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・秋篠宮一家がブータンに私的旅行：結論→特に問題なし
　秋篠宮一家の私的旅行についてナレーションで「夏休みを利用した私的旅行中の秋篠宮ご夫妻と長男の悠仁さ

まがブータンに到着されました。日本時間の午前 11 時頃悠仁さまと紀子様がパロ国際空港に到着され出迎えた子どもたちから花束を贈られました。悠仁さまは三人のブータンの王女と握手をかわされました。そのおよそ 20 分後、秋篠宮様も別便で到着し歓迎を受けられました。今日は宿泊するホテルで JICA の関係者を労いパロ市内の国立博物館を見学されるなど、ブータンの文化に親しまれる予定です。」と伝えられた。

　このトピックに当てられた時間は 40 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】最悪の日韓関係～和解への道は：結論→特に問題なし

　スタジオでの膳場キャスターの「特集です。日本と韓国は徴用工問題などを巡って、戦後最悪といわれる関係の中、今年の 8 月 15 日を迎えました。」というコメント、金平キャスターの「えー日韓の若者達、そして日韓両国に深い結びつきを持つ人たちは、今何を思うのでしょうか。」というコメントを導入に以下に朱記した VTR が特集で取り上げられていた。

デモ参加者の女性（字幕）「力強い手で扉を開きます。」

日下部「えー韓国ではですね、8 月 14 日をですね、慰安婦の日に制定したわけですけれども、今年はちょうど、１４００回目のこの水曜集会と重なったため、いつになく、このように多くの市民が集まってきています。」

ナレ「毎週、水曜日に行われてきた集会。日本大使館近くにある少女像の周辺は、多くの人で埋め尽くされた。最悪といわれる今の日韓関係。こんなメッセージが掲げられていた。」

日下部「今、日本と韓国の関係がすごく悪いでしょ？若い人たちはどう思っているのかな？」

大学生（吹替）「今、日本製品の不買運動中でないですか。みんな積極的に参加していると思います。」

ナレ「集会には、日本が朝鮮半島を植民地にしていた時代を知らない若い世代が多く参加していた。」

デモ隊（字幕）「謝罪せよ。謝罪せよ。謝罪せよ」

ナレ「激しい批判の一方で、日韓関係を危惧した声も聞かれた。」

日下部「日本は、どんな国だと思いますか？」

高校生（吹替）「日本は近くて遠い国だと思います。なぜなら、今回のホワイト国除外、経済的報復をみると、実際の距離は近いけど、心の距離は、遠いと感じます。」

高校生（吹替）「お互い、妥協点を見つけることが、大事だと思います。」

ナレ「そして、迎えた 8 月 15 日、」

日下部「15 日の午前１０時を過ぎたところです。えーまもなくですね、文在寅大統領の、光復節の演説が始まるんですけども、いま、ちょうど会場に、文大統領が姿を現したところです。」

ナレ「8 月 15 日、韓国にとってこの日は植民地支配から解放された光復節だ。」

文大統領（字幕）「今からでも、日本が対話と協力の道に出てくるのであれば、私たちは喜んで手を握るでしょう。」

ナレ「文大統領の演説は、徴用工や慰安婦に触れることなく、日本への非難一辺倒ではなかった。」

ナレ「ソウル市内では、光復節を祝うイベントが開かれ、参加者は大粒の雨が降る中、日本大使館に向かって行進した。」

日下部「徴用工の原告のおじいさんもデモ行進に参加しています。」

デモ隊（字幕）「日本政府は出てこい。何を恐れているんだ。」

ナレ「この状況にこれまで両国の友好関係を作り上げてきた人たちは、何を思うのか。」

日下部「ここは主にね、ミステリー小説のファンたちが集まるカフェ。ここにあるのは、ほとんど、日本のミステリー小説ですね。」

ナレ「日本の小説に魅せられた韓国人の男性がいる。キム・ホンミンさん。15 年前に日本のミステリー小説を中

心に、韓国語訳の書籍を出版する会社を立ち上げた。宮部みゆきや、東野圭吾など、手掛けた作品は、80 を超える。」
ホンミン氏（吹替）「ストーリーの面白さだけではなく、読者へのメッセージもすばらしいと思いましたし、これを私が自分の手で出版できるなんて、どれほど、ハッピーなことか。」
ナレ「１９98 年の、日韓共同宣言をきっかけに、長らく規制されていた日本映画などが解禁。北野武監督の花火をはじめとして、多くの日本文化が入ることにより、日韓の相互理解が進んだ。金さんの出版社では、日本のミステリー小説が人気で、毎月新刊を出している。しかし日韓関係の悪化で、来月予定していた宮部みゆきの作品の発売を見送る決断をした。」
ホンミンさん（吹替）「過去に彼女の本を出した時のようには、売れないと思いました。そうなれば、出版社の経済的損失だけではありません。作家に対しても、礼儀に反するのではないかと思いました。こうした政治的な問題で、出版を見送ったことは初めてです。」
ナレ「キムさんは、文化交流が滞ることに、危機感を抱いている。」
ホンミンさん（吹替）「政治的な、目的、思惑を持った人たちが、読者や、国民をあおることができないように、両国の文化交流を活発にしなければならない。今回のことを通じて、そう思いました。」
"ナレ「日本のアニメ、機動戦士ガンダムのプラモデルを組み立てる兄弟。」
日下部「ガンダム人気あるの？韓国でも」
男の子「まあ人気多いですね。」
ナレ「二人は、韓国人の父と、日本人の母の間に生まれ、ソウル市内の学校に通っている。兄のキム・テワンさんは、」
テワンさん「友達も僕が日本人と、韓国人と日本人のミックスっていうか多文化だから、まあそれも理解してくれているし、よく過ごしています。」
テワン君「もう問題が無くなって、みんなが仲良しになればいいと思います。」
"母親「日本のカレーが好きって、子供らは、日本のカレー好きなんで、」
ナレ「テワンさんの母、栄徳恵梨さん。」
栄徳さん「カレーとキムチを食べます。ははっ。」
ナレ「この日の食卓には、日本のカレーとキムチが並んだ。」"
ナレ「韓国人の夫と結婚する前から、ソウルで暮らし、すでに 30 年近くになった恵梨さん。今回の日韓関係の悪化は、かつてない経験だという。」
栄徳さん「やっぱ道を歩いていても、パッと聞こえてきた声で、中学生くらいの女の子かな？次のその日本のその反対デモ自分は行くんだみたいな話を、中学生くらいの女の子がですよ、」
栄徳さん「非常に、今回はすごく浸透じゃないけど、まあ雰囲気がもうすごい出来上がっちゃってて、非常に私も慎重に、生きています。ここで、なんにも発言できないというか、」
ナレ「一方、日本に駐在していた韓国の元外交官も、両国の関係を心配していた。ソウルでうどん店を営む、シン・サンウォンさん。１９９６年に韓国外務省に入り、2006 年から、2 年ほど、東京の韓国大使館で働いた。そこで、日本のうどんに出会い、一念発起して、官僚をやめた。」
シン・サンモクさん（吹替）「より多くの韓国の人に、和食文化を紹介したいという思いがありました。」
ナレ「最悪と言われる日韓関係をどう見ているのか？」
シン氏（吹替）「日本は、約束は守らないといけないということが重視される文化ですよね。それに対して韓国は、約束を守るかどうかという以前に、歴史の問題としてみているのです。」

日下部「実際どうですか、今の状況。なんか出口が見えない気がするんけども、」
シン氏（吹替）「まず、両国間で責任ある立場にいる人たちが、言葉を慎むことが重要だと思います。攻撃的な発言はお互いに避けなければなりません。」
ナレ「韓国で抗議集会が行われた今週、日本では、」
金平「韓国からの学生さんたちが今、米子空港に到着したということで、これから僕らも取材しようと思います。」
ナレ「韓国の民間団体が主催する日本の学生との交流会。島根県出雲市の会場に到着すると、」
金平「自己紹介の他己紹介と、言葉の通じないもの同士で、その人を紹介しあうみたいなことをまあゲーム形式でやってですね、それですこしまあ表情がほぐれてきたなあという印象な感じですけども、」
ナレ「旅費や、活動費は自己負担だが、日本人 16 人、韓国人 14 人が集まった。」
実行委員「今、ちょっと、日韓関係が悪化している中、不安もあると思うんですが、本当に来てくださって、ありがとうございます。」
ナレ「実行委員が日韓関係の悪化に触れたのは、直前になって韓国側のキャンセルが相次いだからだ。中には、親から反対されたという学生もいた。」
韓国人学生（吹替）「私の母は、日本に行ったことが無いし、日本語も分からず、知り合いもいないので、とても不安に感じていました。日本の放射能の問題や、右翼勢力から何かされないかとすごく心配して、行かないでほしいといわれました。」
ナレ「最悪といわれる日韓関係を、若い世代はどう乗り越えようというのか？」
金平「えーいくつかの分会に分かれて、どういうことを話し合うか、自己紹介を兼ねながら、みんなで話し合っているところですね。」
ナレ「慰安婦の問題について討論するグループでは」
韓国人学生（吹替）「韓国ではこの問題について、長い間戦ってきたし、ずっと教育もしてきました。互いに間違ったことに対しては認めて、謝罪し、償うという持続的な努力が必要だと思います。」
日本人学生「日本では慰安婦問題をちゃんとした知っている若者が少ないっていう。ことが問題になっていると思って」
ナレ「今回の討論で浮かび上がったのは、日本と韓国の歴史教育の違いだった。」
韓国人学生（吹替）「高校で、韓国紙、世界史、東アジアの歴史を勉強しました。東アジア史の科目が別にあり、日本の歴史もかなりの比重を占めます。」
日本人学生「日韓関係を知ろうと思ったら、教科書よりは、自分で自主的に調べていかないといけないね。」
"金平「印象どうですか？」
日本人学生「けっこう学校でその知識を学んでいるということが、自分たちと違うなと感じました。」"
金平「日本の学生見ていてどう思いました？」
韓国人学生（吹替）「正直にいうと、私たちは、歴史やその痛みについて知っていますが、日本人がそういう歴史を学んでいない事は聞いていました。直接着て話してみて、ああ本当だったんだと、ちょっとびっくりしました.
ナレ「議論の後、日韓の学生は一緒に出雲大社へ。」
学生たち「かんぱーい。おいしいです。あまいです。」
ナレ「言葉の壁を乗り越え打ち解け始めた学生たち。議論も次第に深まっていく。」
韓国人学生（吹替）「なぜ日本人が韓国を嫌いかというと、昔のいい時代の日本にもう一度戻りたいんです。」
日本人学生「韓国も一緒で日本よりも、発展した国になりたいという思いが強いんじゃないかなと思います、」
韓国人学生（吹替）「韓国は日本を嫌いなのではなく、ただお互いにうまくやっていきたいんです。叩かないでく

ださい。ただそれだけです。叩かないでください。」
ナレ「日韓関係の悪化について、両国の若者は、どう見ているのか。今回報道特集は、参加した学生たちにアンケートを実施した。」
ナレ「どちらの国の責任が重いかという質問には、日本人学生のほとんどが、どちらともいえない・無回答だったのに対し、韓国人学生は、日本の責任が重いと答えた人が、14 人中 6 人いた。」
ナレ「相手国に責任があると答えた理由は、」
「韓国の責任が重い」と回答した日本人学生（２０）「率直にいうと、慰安婦・徴用工問題が再びふたらび持ち上がると、”またか”という気持ちになる。未来を見た外交を進めてほしい。」
「日本の責任が重い」と回答　韓国人学生（２０）（吹替）「外交において、経済と政治は分離できないが、先制攻撃をしたのは安倍政権だ。」
ナレ「アンケートでは、日韓友好のために何が大切かと思うかとも聞いた。」
日本人学生・22 歳アンケートより（吹替）「対話。売り言葉に買い言葉ではなくて、国と国の関係を改善する姿勢を持って、対話を行う必要があると思う。」
韓国人学生・22 歳（アンケートより）（吹替）「韓国と日本は数千年の間切っても切れない関係だった。この関係の重要性を両国の国民すべてが大事にすればいいと思う。：」
学生「やっぱりこう、これから国を作っていくようになる僕たちの世代、年代の人たちがこうやって集まって、これも何かの縁だと思いますし、今日深まったお互いに対する理解っていうのは、きっとのちのち生きてくるんじゃないかなとは思います。」
　VTR を受けて、スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。
膳場「あの日下部さん、日本から見てて、今韓国に取材に行くの危なくないかなと実は思ったりもしてたんですけども、実際どうでしたか？」
日下部「デモを取材していてもですね、日本人だからといって居づらいっていう感じは全然しませんでしたね。逆にデモ参加者の方が、日本政府と日本人、国民は違うんだって、かえって気を使っているようなところもありましたね。ただ韓国の場合日本と同じように同調圧力がかかる社会ですから、あの一大きな声の前にね、小さい声ってかすんでしまうんですけども、今回、そういった声を聴きたいなと思って行ったわけですけども、例えば出版社の社長ですね、日本ミステリー、日本のミステリー小説に対する尊敬の念というか、愛情の前に日本人としてうれしいやら、有難いやらね。あと韓国の男性と結婚した日本人女性の私にとってどちらも大事な国なんです。っていう言葉ですね、本当に関係に悪くなると、こういった言葉は忘れられてしまう。それにしてもこういった日本のメディアに取材に答えてくれた人たちに本当に感謝しております。」
膳場「うん、金平さん今回ってあの、民間の交流事業の多くがあの、見送られてしまってますよね。そんな中、執り行われた学生の交流会、どうでしたか？」
金平「あのいや正直言うとね、心が洗われたような気持になりましたけれどね、討論を見てて思ったのは、現代史に関する知識が韓国の人と、日本の人で圧倒的に違うんでね。ぼく高校の歴史、三科目あるって知らなくて、東アジア史っていうのはね、それから日本製品の不買運動についても、韓国の学生さんたちは結構冷めてですね、そんなことやっても何になるんだってことを言ってる人がいました。あの日本の学生っていうのは、正直 K ポップにひかれるし、それから、韓国の学生もアニメとか、村上春樹が惹かれるし、なんかわかりあえるんだろうなっていう共通基盤みたいなものを感じましたですね。で、日韓の学生で共通してたのが、メディアが、日本のメディアも韓国のメディアも、煽ってるっていうかね、これ我々としては実に、反省すべき点だなというふうに思いました。」

この特集に当てられた時間は 1293 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】戦争孤児と 500 人のお母さん：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「さて、次は戦中、戦後を生き抜いた女性たちの物語です。戦争で親をなくした孤児たちの体験を描き続ける 85 歳の女性、そして戦争孤児の実情を知って、親をなくした子どもたちの養育に人生を捧げた 106 歳の女性、彼女たちの壮絶な体験です。」というコメントを導入に以下に朱記した VTR が取り上げられていた。

"鎌田十六さん（106 歳）「親もいないしね、うちもないような子ばっかり」

ナレ「戦後、親のいない子どもたちを 500 人以上育て上げた女性がいる。現在、106 歳になる鎌田十六さんだ。鎌田さんの戦争体験は壮絶なものだった。」

鎌田さん「燃えカスがありましていっぱい並べて、着てるものも着たまま焼いたんですから。」"

"ナレ「八十五歳になる星野光世さんは空襲で親をなくし、十一歳で戦争孤児になった。」

星野さん「すがりたい親もいない、本当に辛かったですね。」

ナレ「終戦直後、街に溢れた戦争孤児。その辛い記憶を後世に残すため、星野さんは 70 歳になった頃から戦争孤児の絵を書き始めた。」

星野さん「自分はこういう体験をしてきたんだと思って、私にはそれしかできることないですよ。」"

ナレ「戦中戦後の過酷な日々を生き抜いてきた女性たち、その物語をおった。」

"ナレ「戦争孤児の絵を書き続けている星野光世さん 85 歳、」

星野さん「その二軒目です二軒目、来るたびに変わってますねぇ。」

ナレ「戦争で両親と兄と妹を亡くした、」

星野さん「集団疎開行くのに朝、ここでね、母が学校まで送っていこうかって言ってくれたんですね。でも私、来なくていいと断って、その時が別れの朝になっちゃった。」

ナレ「今から 74 年前、3 月 10 日未明の東京大空襲。下町一帯は焼夷弾の炎で焼き尽くされ一夜にして 10 万人以上が命を落とした。この空襲で親をなくした星野さんは 11 歳で戦争孤児になった。戦後の混乱期、街は戦争孤児で溢れかえっていた。その数は全国でおよそ 12 万 3000 人、孤児たちは生きるため街中の残飯をあさり、時には盗みも働いた。野良犬、バイキンと言われ蔑まれ世間から差別的な扱いを受けていた彼らは浮浪児と呼ばれた。当時、小学生だった星野さんは同級生たちと千葉の寺に学童疎開していたため、空襲の難を逃れた。両親がなくなったことを知ったのは疎開から半年が過ぎた頃だった。」

星野さん「誰かがおじさんが迎えに来たよ、と呼びに来て、そして言ったらそこに立ってて。お父ちゃんもお母ちゃんも死んじゃったよ、というんですよ。突然言われても何も感じなかったですね。」

ナレ「その後、幼い妹と弟の三人で親戚に引き取られたがどこも他所の家の子供を養う余裕はなく、あちこちの家をたらい回しにされた。毎日が地獄のようだったという。」"

"星野さん「とにかく、もう邪魔でしょうがないっていう態度なんですよね。えぇ。わかるんですよ、それが、子供ながら。本当、針のむしろの上みたいでしたね、あのときは。」

ナレ「そんな生活に耐えかねた星野さんは妹と弟をつれ、親戚の家を飛び出した。あのときの辛い記憶は今も忘れることはできない。」

星野さん「お父ちゃんお母ちゃん、どうして私達を残して死んじゃったの、で私が泣き出したら妹も声を上げて泣き出して、で弟は声を出さなかったけれど涙がいっぱい溜まっていたんですよ、すがりたい親もいない、本当に辛かったですね。」

ナレ「戦争孤児として自身の記憶を絵にしたのは 70 歳からだった。」
星野さん「あぁ、自分はこういう体験をしてきたんだって思って書き残しておこうと思ったり、私にはそれしかできることないですよ。えぇ。」
ナレ「自分のこと以外にこれまで 10 人の戦争孤児の体験を得にしてきた。中でもこの絵は特別だという。」"
"ナレ「これは上ので浮浪児生活をしている時に狩り込み捕まって、どこに連れて行くのだろうと思ったら山の奥へ入ってそこで車から子どもたちを降ろして、車は逃げるように走り去ったっていうんですよね、殺しにいったんですよ結局ね、当時の社会も浮浪児が邪魔だったんですね。えぇ。」
ナレ「星野さんが欠いた戦争孤児の一人米川琴さん 83 歳。東京大空襲で両親をなくし 9 歳で孤児になった米川さんは兄と二人で焼け跡に残ったの中で暮らしていた。」
米川さん「焼けた金庫を拾ってきて、大にしてその上にその、爆弾のなんか、それがコンロの代わりになったんですよね。ままごとみたいな生活でしたけどね。」
ナレ「生活の支えは闇市で働く兄の僅かな収入だけ。食べものもろくに買うことができず、校舎の裏に生えている雑草を食べて過ごすことも多かった。そんな中。」
米川さん「毎日毎日ね、美味しそうなパンをふかしてね、家族で食べているのがね、羨ましくてね。トイレに行っている間に、お隣のうちに入ってパンを一個盗んで食べてそれが兄に見つかって、それでもうそんな事するんだったらでていけって言われちゃったんですよ。」
ナレ「兄の元を追い出された米川さんは何日も街をさまよい続けたという。」"
"米川さん「あぁ、ここで飛び込んじゃえば、もう死ねるなというふうにね。川に飛び込めばそれで終わっていたもののね。」
ナレ「その後、児童相談所に保護された米川さんは千葉の農家に養子に出され子守に追われる日々を過ごし続けた。」
米川さん「幸せにやっている人が羨ましいなっていうのは本当に数え切れないほどね、見てきましたけれどね、自分はそういう定めに生まれてきたのかななんてね。」"
"ナレ「東京墨田区にある郷土文化資料館。ここに星野さんが書いた絵日記が展示されている。」
石橋星志（学芸員）「星野さん非常に細かく、色んなシーンをこう、描いておりますので、やはり展示を見た方にも孤児の方の歩みや思いっていうものがわかる、戦争の苦労っていうのがですね 8 月 15 日とか昭和例えば 20 年代で終わったとかではなくてですね。戦後の歴史の見方そのものもですね、変わるような思いがする時がありますね。」
ナレ「戦争孤児の絵を書き続けている星野さんは今年ある女性の体験を書き始めた。その女性とは現在 106 歳になる鎌田十六さんだ。」"
"鎌田さん「大正 2 年 1 月 16 日。」
インタビュアー「よく覚えていますね。」
鎌田さん「はい、それを覚えていなかったらどうしようもない。」
ナレ「16 日生まれで名前がトム。歳のせいで耳は遠くなっているが至って健康だ。鎌田さんは東京大空襲で母親と夫、そして生後六ヶ月の娘を亡くしている「。あの日のことは今もはっきりと覚えている。」
鎌田さん「もうひっきりなしにね、あの B29 ですか、そういうのが来るんですね、焼夷弾が落ちるから、それで危ないからって言って、それで隣の組長さんがですね、どっか避難しましょうって言ってきました。」
ナレ「墨田川沿いの下町で一家 4 人で暮らしていた。3 月 10 日未明、街が焼夷弾の炎に包まれる中、家族とともに隅田川の方へ避難した。だが、逃げる途中で躓いて、娘の早苗ちゃんをおぶったまま川の中へ落ちてしまった。

川には大きな荷車が落ちていて、その上に引き上げられた。そこへ夫が助けに来たが。」
鎌田さん「水がどんどんきますでしょ、たまらない、たまらない、2 回いいましたけどね。」
ナレ「その後夫を見失い、荷車の上で気を失ってしまった。夜明けとともに目を覚ました鎌田さんは避難所になっていた小学校へと向かった。そこで悲しい事実を告げられた。」"
"鎌田さん「学校の玄関入りましたら。入り口に保健師さんがなんかね、いらっしゃいましたが。うちの子供を見てくださいって言ったら、赤ちゃんはなくなっていますから赤ちゃんの分まであなたは元気でいてくださいって。私は生きていると思ったけど、」
ナレ「最愛の一人娘、早苗ちゃん、その口元にお乳を絞り入れてみたがもう我が子は飲んでくれなかった。それからしばらくして夫の遺体が川の中で見つかった。」
鎌田さん「死骸を洗いまして、それを川のほとりですけどね、そして刑事さんも死骸みて、知らないことにしてるから、自分たちの手で焼きなさい、っていって。燃えカスがいっぱい並べてそしてそれを高く積んで、それに死骸を載せてね、で、着てるものも着たままで焼いたんですから。」"
"ナレ「遺体は朝九時頃から焼き始め、骨にするのに夕方四時までかかった。その感じっとそばで眺めていたが涙は一滴も出なかったという。6 日後新聞紙に包んだ遺骨を持って夫の母親が住む茨城へと向かった。」
鎌田さん「なんだか私だけ生きていてもうしわけないとおもって、そうかと、持っているわけにはいかないから蓋を渡したら母親が情けない姿で来たね、って母親がちょっと泣いてましたけどね、でも私もそう簡単に私も泣いてるわけにはいかんから、黙ってそこに立ってたらね。そしたら私の元へ、あなたが元気で良かった、だから無縁仏にならなかった、ってそれで私もやっと涙が出てきましたよ。"
"ナレ「江東区にある東京大空襲・戦災資料センター。ここに当時、娘の早苗ちゃんが身に着けていた着物が展示されている、着物を預かった戦災資料センターの名誉館長、早乙女勝元さんはこう話す。」
早乙女さん「その水がものすごく冷たくて、脇の下に刃物を入れられるような気がした、と。ちょうど背中にしょっていた赤ちゃんはピッタリ背負っていたから背中だけは濡れずに済んだんですね、だからその早苗の命と引換えに自分が救われたんだと言うことをおっしゃっていまして、これだけ痛ましい体験をなさった方というのはそうはいないと思います。」"
"ナレ「東京大空襲から 1 年、鎌田さんは上野で行われた慰霊祭にでかけた。そこで衝撃的な光景を目にする。」
鎌田さん「親もいないしね、うちもないような子ばっかり、浮浪児、」
ナレ「駅の周りはボロボロの服を着て物乞いをする戦争孤児たちで溢れかえっていた。持ってきたおにぎりを食べようと思ったら子供がみんな手を出すの、ください、ください、って。」
ナレ「この子どもたちの面倒を見てあげたい、そんな気持ちに駆られた鎌田さんは、その後、戦争孤児たちが収容されていた東京都養育院に就職。保母として働くことになった。そこで、100 人を超える孤児たちの世話をした。」"
"鎌田さん「要少年保護寮といったんですけれどもなにもないんですよね、お風呂もないですし、どこかからドラム缶持ってきて、それでちょっとした小屋みたいなのを作った、そこで沸かして、それで子どもたちを洗ってあげましたけどね、大変だったですよいっぱいですから。」
ナレ「子どもたちは親の愛情に常に飢えていたという。」
鎌田さん「誰か一人がねお母さんって言ってもいいよって言ったら、それからみんなお母さんお母さんっていうようになって、自分の寄宿舎に帰ろうと思ってるとそしたら、明日来るのか、明日来るの、本当にくるの？なんて、来るからね、って言うとほんとねおやすみっていうと、やっぱり私達がいると嬉しかったらしです。」
ナレ「当時、まだ 30 代、再婚の話が何度もあったという、だが全て断り一途に保母の道を歩み続けた。そんな

鎌田さんについて戦災資料センターの早乙女さんは。」"
"早乙女さん「なんで、そういう施設で戦災孤児たちを育てようとなさったんですか、と聞いた人がいますけれど、彼女の返事羽、亡くなった早苗が面倒見てやってと言われたから、という答えだったそうです。で親を失った子供に身を寄せると言うか、そういうような思いで戦後を生きた方ですね。」
ナレ「その後。70 歳で保母の仕事を辞めるまで実に 500 人以上の子どもたちを育て上げた。鎌田さんの後輩たちはこう話す。」
川合碧（鎌田さんの後輩、73 歳）「養護施設の保母さんをずっと続けるなら鎌田お母さんみたいになれって言われたのと、」
インタビュアー「それ、誰に言われたんですか。」
川合さん「子供に、中学生の男の子に。」
藤田淑子さん（鎌田さんの後輩、75 歳）「大勢子供いるから、いろんな非行があったり、いじめだ何だあったけど鎌田お母さんの寮は鎌田お母さんがいればなんか落ち着いていると、そしてそんなことしたらお母さんに叱られるぞ、とか子供同士でも言ってましたから。」
川合さん「でもその上野から連れてきた子供と一生ね、この子どもたちとっていうのはお母さん思っていた、原点だったから。"
"ナレ「この日、鎌田さんのもとにかつての教え子が訪ねてきた。」
四方田雅之さん（鎌田さんの元教え子、65 歳）「失礼します。久しぶり。」
鎌田さん「いつも年賀状いただいてありがとうね。」
四方田さん「いえ、とんでもないです。」
ナレ「四方田雅之さんは 5 歳から 15 歳までの 10 年間、児童養護施設で鎌田さんに育てられた。」
鎌田さん「今も独身なの？」
四方田さん「今も独身、ねぇ。未だに独身なんだけど。」
鎌田さん「まだ若いからいいよ。」
ナレ「こうして会うのは 5 年ぶり、我が子のように育ててくれた鎌田さんへの思いは今も変わらない。」
四方田さん「今こうやっている、前を向いて生きていられるのも、先生に、やっぱりお母さんに鍛えてもらったものが今も残っているのかなっていう。育ての親っていうのがこうやって今 106 歳になっても元気でいてくれるっていうのはすごい勇気をもらえるし、」"
"ナレ「戦争孤児の絵を書き続けている星野光世さん。この日、鎌田さんの人生を描いた絵本がようやく完成した。」
星野さん「なんていうかしらね、トムさんね、これ見て、ぜんぜん違うよって思うかもしれないけれどもそこのところは勘弁してもらって。」
鎌田さん「どうもありがとうございました。」
星野さん「これ、茂さんとトムさん。」
鎌田さん「こんなきれいじゃね」
ナレ「幸せだった頃の思い出や辛く悲しい戦争体験など鎌田さんが歩んできた道のりが 50 ページの絵本にまとめられた。」
鎌田さん「これ、あー、そうそうお骨をね、その母親に出すのが辛くてね、あなたが元気でいてくださいって、その時私もポロポロ涙がこぼれましたよ。」
星野さん「感想はいかがですか。」
鎌田さん「ほとんどでもね私の思うようなところが書いてありますぅので本当感心してます。」

星野さん「もうね、トムさんの体験を書かせていただいて、良かったです。」
鎌田さん「あら、そうですか。」
星野さん「ありがとうございます。全部のページを、よく覚えていますんでびっくりしてます、すごい記憶力ですね。良かったです、あの書いて、良かったと思います。」
　VTR をうけてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。
"膳場貴子「取材した瀬戸ディレクターです。あのトムさんの過酷な戦争体験と、対照的なあの笑顔を見ていますとね、本当に目柱が熱くなってしまいますね。そのトムさんの半生を描いたこちらの本なんですけれども、戦争孤児を始めてみた時にこの子達は私と同じ目にあったのだ、戦争でたった一人生き残った私はこの子達の面倒を見てあげたい、一緒に住みたいとおもいました、って書いてあるんですね。で、大勢の戦争孤児たちを育てるというのは並大抵のことでは務まらないですよね。」
瀬戸隆二「で、まずこのトムさんという人なんですけれども、本当見た目小柄でですね、本当可愛い感じの人なんですけれども、でも実は心が強い人なんだと思いますね、で、トムさんが戦後に就職した養育院と、この施設なんですけれども、当時この施設自体が食糧難で、で収容した子供っていうのは食料を求めてすぐに脱走してしまうんですね、でそんな中で風呂に入れたり食事の世話をしたり、トムさんはなくなった分まで一生懸命働いたんですね。で、その後、児童養護施設などで孤児以外にも多くの子供達を育て上げたと。」
金平茂紀「四年前に瀬戸さんと東京大空襲の取材をしたのが分かったのですが、鎌田さんのように家族を自分の手で荼毘に付すことができたっていう人はまれでしたですよね。」
瀬戸隆二「いや、本当にそうだと思いますね。で、アレだけ悲惨な体験の中でですね、辛いとか悲しいとかいう気持ちは実は全然ではなかった、で後にですね、夫の母親に骨を渡しに行くんですけれども、その時こう母親にあなただけでも無事で良かったというふうに言われて、そこで一生分の涙を流した、まぁやはりあの戦時中というのは普通の精神状態ではなかなかいられなかったんじゃないかなという気がいたします。」
日下部正樹「大人たちの戦争体験に比べるとね、孤児たちの体験というのはあまり語られてこなかったような気がするんですけれども。」
瀬戸隆二「そうですね、やはりその孤児の多くは親戚の家をたらい回しになったりとかそこで農業や子守をずっと強いられてきたと、まぁいい経験をしていないですよね、そのため多くをこう語りたがらないと。まぁ、そんな中で星野さんがね、自らの体験を絵に書いて残していていると。で、その星野さんも 85 歳ですね、元気でいる限り、ずっと絵を書きたいとおっしゃっていたのが本当、素晴らしいなと思いましたね。」
膳場貴子「以上特集でした。」"
　このトピックに当てられた時間は 1694 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
　特になし

検証者所感
・【特集】最悪の日韓関係～和解への道は
　スタジオで日下部キャスターが「ただ韓国の場合日本と同じように同調圧力がかかる社会ですから、あの一大きな声の前にね、小さい声ってかすんでしまう」とコメントしていたが、韓国ではどのように同調圧力がかかるのか、また日本ではどのような同調圧力がかかるのか、というのはよくわからなかった。
　同調圧力というのは、顔見知りに囲まれて生活する田舎と、そうした人付き合いの希薄な都市部でも随分と事

情が違っているような感じがするが、そのあたりはどうなのだろうか。また、日本ではこの季節になると毎年のようにメディアが第 2 次世界大戦を取り上げるが、これもある種の同調圧力であるような印象がある。

また、金平キャスターが「日韓の学生で共通してたのが、メディアが、日本のメディアも韓国のメディアも、煽ってるっていうかね、これ我々としては実に、反省すべき点だなというふうに思いました。」と述べていた。韓国のメディアが日韓関係を日頃どのように取り上げているのかはわからないが、日本のメディアについては他の国との関係に比べて韓国を始めとしたいわゆる極東の国との関係は取り上げ方が過敏であるような印象は受ける。そうした取り上げ方が国民を煽っているような面はあるだろう。